

「未来の学びフォーラム」を開催します

町では、県立高校におけるICT教育モデル校である川根高校を会場に、「未来の学びフォーラム」を開催します。保護者の方や教育関係者に限らず、どなたでもご来場いただけます。町が取り組むICT教育を、この機会にぜひ間近でご覧ください。

日時: 11月11日(土)
午後0時30分から午後4時30分まで(受付開始:正午)
会場: 県立川根高校 セミナーハウス(徳山区)
申込方法: 11月8日(水)までに、
役場情報政策課(56-2232)へお電話ください。

プログラミング講座「EV3」(*)を操作してみよう!

町内小中学生が受講する様子を、間近でご見学ください。また、総務省「プログラミング教育事業推進会議」の松田孝委員に「プログラミング教育の目的とねらい」を解説していただきます。

(※)ブロック玩具で組み立てたロボットを、プログラムで自由に制御することができる教材。講座で使用する「EV3」は、「IT人材育成に関する包括協定」を町と締結した(株)ベネッセコーポレーション、京セラコミュニケーションシステム(株)、東海ブロードバンドサービス(株)から、各2体を寄贈いただきました。



川根高校の生徒と「ZOHO University」(*)の学生が遠隔コミュニケーション

テレビ会議システムでインドとつなぎ、英語でコミュニケーションを取ります。

(※)世界的IT企業「ZOHO」(町内にサテライトオフィスを開所したゾーホージャパンの親会社)が、同社内に設立した教育機関。

解説「川根本町モデル」が目指すもの」

町が取り組むICT教育「川根本町モデル」の特色について、町教育委員会が紹介します。

子どもたちの主体性を育てる「プログラミング教育」

2020年度から、全国の小学校でプログラミング教育が始まります。現状ではICT環境は学校によってまちまちであり、設備の充実度も各校で異なります。しかし、すべての小学校で何かしらの形で、プログラミングを取り入れた教育がスタートすることになるのです。

プログラミング教育の必修化は、直接には将来を見据え、IT技術者の量を確保し質のレベルアップを図るとともに、デジタルが当たり前のプラットフォームとなる社会を生きる子どもたちに、コンピュータをプログラミングすることでより豊かな社会の形成者となる資質・能力を身につ

けさせようとするものです。プログラミングを学び、プログラミングで学ぶことは、情報化社会を安全に、そして主体的、積極的、創造的に生きる力を育みます。そして子どもたちに自身のキャリア形成と選択に夢を抱かせ、自らがより豊かで平和な社会の形成者であることの自覚を促すものです。誇りをもって未来社会を創造しようとする希望と意欲にあふれた子どもを育てるのが、プログラミング教育の目的です。

子どもたちが社会の第一線で活躍する20年後、時代は確実にデジタルが当たり前のプラットフォームとなっている情報化社会の真っ只中です。情報化社会のメリットとデメリット、光と影を正しく理解し、安心安全にその社会で生きていくには、子どもたちひとりひとりの情報に対する主体性を育む以外に方法はありません。そして、その主体性の確立こそが、コンピュータ社会における自らの生き方を考えることにつながるのだと信じています。



総務省「プログラミング教育事業推進会議」委員
東京都小金井市立前原小学校
松田 孝 校長

町の良さを活かした教育をICTの活用でさらに発展



町教育委員会 大橋 慶士 教育長

近代に電気が発明されたことで、道沿いのガス灯に点火する人は仕事を失いましたが、その代わりに「電気をつくる」という新たな職種が生まれました。同じように、ICTが身近になり人工知能やロボットが普及するこれからの時代においては、今まで想像できなかったような職業に就く子どもたちもいるはず。さらに言えば「サテライトオフィス」のように、同じ職種であっても「どこで・どのように働くか」ということで、自分が多様化していくことになり、新しい仕事が生まれ「働き方」も変わっていくこれからの時代

において、子どもたちには、自らの未来を自らの手で切り開く力が求められます。そうした中、次期学習指導要領では「主体的・対話的・深い学び」による授業改善を教育現場に求めています。これは、教員が一方的に教えるのではなく、子どもたちが授業に主体的に参加し、対話する相手や議題の趣旨を理解して討論をすることで、より確かな学力と表現力、



「RG授業」です。RG授業は、学校間で連携し、学習内容に応じて適正規模の学習集団を構成することで、子どもたちにとって効果的な学習の場を創り出す取り組みです。RG授業は教員にとっても、互いの授業の手法を持ち寄り切磋琢磨する場となります。そのため、ICTの活用手法についても、今後はこのRG授業を通して

問題解決力を習得させようというものです。その過程において、ICTは子どもたちの興味を引きつけ、発想を引き出し、「深い学び」へと到達させるためのツールとして活用されることが期待されています。

一方、町では一昨年度に策定した「学校教育ビジョン」に基づき、町全体の6つの小中学校をひとつの緩やかな学校と見立てて、小規模校による個に応じたきめ細かな教育を推進してきまし。その取り組みの中で2つの大きな柱となるのが「RG授業」と「キャリア教育」です。



IC Tの力を教育現場に適材適所で取り入れていくことで、町の地域性を活かした特色ある教育を、さらに発展させていくことができると考えています。町の宝物である子どもたちの「生きる力」の育成と「確かな学力」の定着に、教育委員会一丸となって取り組んでいきます。

質を高め合っていくことができます。

キャリア教育は、将来の社会的・職業的自立に向け、その基盤となる能力を定着させるものです。個々に適したキャリア教育を9年間で積み上げることで、自己肯定感や自尊感情を育み、学ぶ意欲を培う狙いがあります。このキャリア教育においても、ICTの活用が期待できます。例えば県外のある高校では、生徒自身がテストの点数をタブレット端末に蓄積し、自らの弱点を把握して対策に取り組んだことで、学力向上につながったという事例があります。また、データを蓄積し可視化していくことは、学力向上だけでなく、結果として教員の業務効率化や負担軽減につながる効果も考えられます。